

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】
実施内容報告書

受託団体名 聖徳大学

1. 事業名称

外国人の生活行動と振り返りを重視した日本語教育の実践

2. 事業の目的

- ① 外国人から生活場面で必要としている表現のアンケートを実施し、実践的なCan-do型指導の方法を検討する。
- ② 外国人の生活行動に結びついた表現のニーズを調査し、実効性のある会話例文を発見する能力を開発する。
- ③ 振り返りシートなどを活用した授業評価のあり方を研究する。

3. 事業内容の概要

- 地域日本語ボランティア教室などで、これまでに定着した文型説明型の指導に問題があることを認めつつも、急激に新しい指導方法に乗り換える、ということに対しての不安や抵抗感、戸惑いなどを解消するため以下の項目に取り組んだ。
- ① 文型指導に付随して、外国人のニーズをより積極的に指導をおこなう
 - ② 「文型指導からCan-do型指導へ」の具体的指標として、外国人の生活行動により密着した多くの会話文例集を提示する
 - ③ 単なる「覚え込ませ型授業」にならないように、即時型の評価を重んじたニーズに沿った指導を展開する方法開発をする
 - ④ 学習者・指導者双方の評価の振り方を、振り返りシートの活用を一つの拠り所として検討する

4. 事業の実施体制について

【中核メンバー】北村弘明（聖徳大学言語文化研究所・教授） 真鍋昌子（コーディネーター）
運営委員会での検討、決議を踏まえて、北村・真鍋は逐次協議の上、事業全般の基調に関わるテーマが十全に各部門に反映されているかどうか配慮していく。
・北村は特に「外国人の生活行動から会話ニーズを探る」という点が、各取組に十全に反映されているかを見極める。
・日本語教育の取組については、北村・真鍋が、指導者との話し合いを通じて、事前アンケートの実施方法を検討する。
・人材養成の取組については、各講師の合議の上、北村と青山講師が第二言語習得理論の立場から、ニーズと機能との関連をさぐり、効果的に指導し得る技術を講座全般で反映できるプログラムとなるよう、企図する。
・真鍋は、コーディネーターという立場からも、各担当者ときめ細かな連絡を取り、問題や質問に対応する。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	林 史典	聖徳大学
2	北村 弘明	聖徳大学
3	甲斐 宏子	国際アカデミー日本語学院
4	片山 朝夕美	我孫子市国際交流協会
5	堤谷 仁美	我孫子市国際交流協会
6	市村 末子	野田市国際交流協会
7	治田 三夏男	印西市国際交流協会
8	菅家 裕子	松戸市国際交流協会
9	小宮山まり子	松戸市国際交流協会
10	新田 雅美	流通経済大学

【概要】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年4月13日(月) 15:00-17:45	2時間 45分	聖徳大学	林史典、北村弘明、市村末子、甲斐宏子、片山朝夕美、菅家裕子、小宮山まり子、堤谷仁美、新田雅美、治田三夏男、真鍋昌子	1. 委員の紹介 2. 委託事業の実績報告 今年で8年目。近隣市の日本語教育の発展のための拠点となるべく展開。 残された大きな課題として、①会話内容と文型との兼ね合いの問題 ②文型の提出順の問題 ③会話内容と外国人が必要としている生活行動に密接したニーズ がある。 などがあつた。 また、これまでに定着した文型説明型の指導に問題があることを認めつつも、急激に新しい指導方法に乗り換える、ということに対しての不安や抵抗感、戸惑いなどを解消するための施策であつたが、文型指導に付随して、実生活で活かす会話指導をおこなう場合、やはり外国人のニーズをより積極的に拾う必要があることが実感された。 3. 今年度の委託事業説明 1) 地域日本語教育実践プログラム(A)について 2) それぞれの仕事の説明と日程の検討 3) 地域日本語ボランティア教室との連携についての各委員の討議 ①この事業の取り組みの経緯、結果を他の地域の日本語指導者団体においても生かせるようにまとめ、メールマガジンのなどで広く伝える(メールマガジンは、過去に研究所から特別研究員に向けた実践例あり)。 ②そのために各団体からの積極的な参加が得られるよう、今後、適宜にここを拠点として多くのボランティアに学ぶ機会が与えられるような運営(日本語教育に関する講演会・研修会等)ができるよう計画する。 4. その他 1) 名簿作成、情報入力 個人情報に注意 2) 聖徳大学言語文化研究所の紹介
2	平成27年4月20日(月) 14:00-16:30	2時間 30分	聖徳大学	林史典、北村弘明、市村末子、甲斐宏子、片山朝夕美、菅家裕子、小宮山まり子、堤谷仁美、新田雅美、治田三夏男、真鍋昌子	1. 今年度の委託事業確認 1) 人材養成講座講師 2) 運営委員の仕事説明 ①日本語教育指導と日程確認 ②人材の養成講座について日程発表 ③教材開発作成について説明 3) 人材養成講座担当講師の日程の検討 4) 本事業におけるCan-do型授業の理念について 昨年度からの積み上げを大切にしていきたい。 具体的にどのようなcan-do-statementsを作成するか。 ① 基本的事項として、「〇〇ができる／できない」を見る ② どの程度複雑なことができるのか、あるいはどの程度流暢にできるのかなど段階性を持たせる ③ 単に行うことができる(買い物ができる)だけでなく、「日本語を用いて人間関係が構築できるようになった」など、目的、成果等を含める ④ 動機や意欲などの心理面の変化も含めたものとする(例: 〇〇をしようと思うようになった、〇〇が大事だと分かった) ⑤ 社会参加についての項目を含める(※現段階では具体例なし) アンケート調査の項目として、文化庁のカリキュラム案にも項目が少ない。「社会の一員となる」としては、「公的施設の利用、役所の利用」くらいしかないので、今後、実際の東葛地区の状況を考えて、指導事項を開発していく必要がある。

3	平成27年5月18日(月) 14:00-17:30	3時間 30分	聖徳大学	北村弘明、市村末子、甲斐宏子、片山朝夕美、菅家裕子、小宮山まり子、堤谷仁美、新田雅美、治田三夏男、真鍋昌子	1. 教室運営の取り組み・今後の取り組みについて 1) ニーズ調査の実施 この結果により、授業展開を決める。アンケート項目の選定文化庁「カリキュラム案」の「2.生活上の行為の事例に対する学習項目の要素」から、討議の上、決定。 2) アンケートは、日本語・英語・中国語・韓国語を併記して作成する。 3) アンケートには文字ばかりでなく、理解を容易にする助けとしてイラストも添える 4) アンケート結果により、テーマとカリキュラムの作成、および担当者による教材作成を始める 5) アンケートは、授業担当者がアンケート用紙を見せながら、原則インタビューでおこなう。 2. 日本語教育初日のことについて指示確認 1) 集合時間と時間配分の確認 2) 用意するものの確認 3. ニーズ調査について ※「I 健康・安全に暮らす」は毎回少しずつ授業に入れていく。一度やっただけでは、身につかない。 1) アンケート項目にない部分もあるので、個々にやり取りしながらニーズを聞き出す。 配付資料あり(抽出項目をまとめたもの) 4. 教材作成について 指導及び毎時の提出項目について、指示と確認。 注意事項等の確認。後日に開催する教材作成会議において、さらに具体的に詰めていく。 試案「自己紹介いろいろ」「待ち合わせ」を参考に検討と進め方の指導をする。
4	平成27年6月20日(土) 18:00-20:30	2時間 30分	聖徳大学	北村弘明、市村末子、甲斐宏子、片山朝夕美、菅家裕子、小宮山まり子、堤谷仁美、新田雅美、治田三夏男、真鍋昌子	1. 人材養成講座の状況確認 1) 時期 2) 開催済講座 3) 受講者に関しての状況説明 4) 記録に関しての確認 2. 日本語教育の状況確認 1) 参加数 2) 日本語教室の授業報告の書き方について再度説明と確認 3) 日本語教室の使用教材に関して 3. 教室運営に関して 4. その他 指導項目の検討と次回のテーマについて検討
5	平成27年6月29日(月) 15:30-19:00	3時間 30分	聖徳大学	林史典、北村弘明、市村末子、甲斐宏子、片山朝夕美、菅家裕子、小宮山まり子、堤谷仁美、新田雅美、治田三夏男、真鍋昌子	1. 人材養成講座の経過状況確認と出席状況 2. 教室見学について(人材養成講座受講者の中からの希望者に対して実施) 1) 実施日の決定 2) 希望アンケート実施の流れ 3) 定員 1日5~6名とする。 4) アンケート作成 3. 教室運営の指導法についての討議 ニーズに合わせた授業を展開するうえで、指導者それぞれ悩むところもあり、指導者会議などで話し合い、情報などを共有するように指示する。 《現時点での課題となっていること》 ★学習者の評価基準についてどのような項目に留意すればよいのか。 ★意欲、態度での変化ということ ★日本語によるコミュニケーションの状況 ★複数の評価基準の選択・組合せ

6	平成27年8月3日(月) 15:45-19:00	3時間 15分	聖徳大学	北村弘明、市村末子、甲斐宏子、片山朝夕美、菅家裕子、小宮山まり子、堤谷仁美、新田雅美、治田三夏男、真鍋昌子	1. 人材養成講座アンケートまとめと整理報告 2. 日本語教室見学アンケートの内容について報告 アンケートの概要と結果の報告 【アンケートの中で注目される意見・質問などの報告】 ★評価に関して ★コミュニケーション能力に関して ★組織としてのボランティア団体の問題 3. 教室運営の報告 4. 教材作成に向けての準備予告 5. その他 1) 今後のカリキュラムについて話し合い 2) 教材作成についての状況報告
7	平成27年9月28日(月) 13:30-16:00	2時間 30分	聖徳大学	北村弘明、市村末子、甲斐宏子、片山朝夕美、菅家裕子、小宮山まり子、堤谷仁美、新田雅美、治田三夏男、真鍋昌子	1. 日本語教育関係 授業報告書の作成と、内容の分析 2. 報告書の整理とその他提出物について 基本文型・会話シート、振り返りシートの整理。 基本文型・会話シートについての見直し。 振り返りシートについて。 3. 教材作成の状況について 教材作成の手続きとして、以下の要領に了以することを提言することとする。 ①教材を機能から分析 → 汎用的教材、目的別教材 ②教材を性質から分析 → 言語的教材、非言語的教材、複合的教材 ③教材を目的から分析 → 主題型教材、補助型教材 ④教材の必要性について ⑤教材作成の注意点と教材の使い方 ⑥授業活動(使用場面)の項目の形式を統一すること ⑦教材を作成するうえでの疑問について各委員間で必ず意見交換をおこなうこと 4. その他
8	平成27年10月2日(土) 16:45-19:30	2時間 45分	聖徳大学	林史典、北村弘明、市村末子、甲斐宏子、片山朝夕美、菅家裕子、小宮山まり子、堤谷仁美、新田雅美、治田三夏男、真鍋昌子	1. 人材養成・研修講座についての報告と省察 【全体の印象】 ・ワークショップ形式の授業が分かり易かったようである。 【特に印象に残った点】 ・受講した知識や内容を地域に持って帰って、組織の中でどう広めていくかが難しい。ボランティア同士の中でも、依然として「自分が教えたいことを教えたい」という古い考えの人との間には厚い壁があると感じている。 ・各団体で、この講座の内容を組織に還元したいと感じているが、それができない実情がもどかしいとの声が聞こえた。 【課題と思われる事項】 ・ボランティア団体の中には、組織が大事、ボランティアで先生をやりたい、という観点で物事を見ているケースが多く、学習者のためと言いつつ、ボランティア同士の人間関係を重視している傾向が大きいようだ。 2. 日本語教育について 【全体の印象】 まだまだ、指導方法が呑み込めないところもあり、なかなか思うように指導できなかったこともあったが、お互いの指導を見たり、会話や振り返りシートを作ったりする段階で、指導者それぞれに多くの発見があったようだ。 【今後の課題】 ・指導当日の担当教師だけでなく、他の日の担当者も来たことはよかったが、意見が十分伝わらなかった。今後は、感想を伝えるシステムが必要か。 3. 教材作成について 4. その他

6. 日本語教育の実施【初中級クラス】

(1) 活動名称

【初中級クラス(金曜日)】外国人の生活行動に関するアンケート調査から、Can-do型授カリキュラムと振り返りシートを活用する授業

(2) 目的・目標

- ① 外国人学習者に生活行動をアンケート調査し、ニーズを正確に把握したうえで、学習者のニーズに沿ったCan-do型会話に反映する方法を開発し、指導することにより、日本語学習に対する動機づけを高め、日本語の習得を促進する。
- ② 学習者にも指導者が「振り返りシート」により目標の設定・評価と一緒にできる授業をおこなうことで、学習者のニーズに応え、満足度を高める。
- ③ 初級クラスよりも、学習者の自発的な発展練習・応用練習を促す授業を展開する。

(3) 対象者

原則として来日後短期間しか経ていない地域在住の外国人。国籍・年齢は問わない。また、他の異なるレベルのクラスも設定し、同時開催する。

(4) 使用した教材・リソース

オリジナル教材「生活行動一覧表」「各場面でのCan-do型会話」市販教材『できるにほんご』『みんなの日本語』ほか

- (5) 参加者の総数 10 人
そのうちの日本語学習者数 10 人

【出身・国籍別内訳】

中国	7人	インドネシア	0人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 ・スリランカ 1人 ・ニュージーランド 1人
韓国	0人	タイ	0人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	0人	フィリピン	1人	
ネパール	0人	日本	0人	

- (6) 開催時間数(回数) 2 時間 (全 15 回)

(7) 日本語教育の実施内容【金曜日 初中級クラス】

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年5月29日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	9人	1.自己紹介(初中)	・初対面の挨拶ができる練習 ・出身、来日年度と月、家族や趣味が言える練習	新田雅美	治田三夏男
2	平成27年6月5日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	10人	2.電話(初中)	・歯科医院の予約ができる。 ・仕事や友達に「欠席」「遅刻」の際の電話連絡ができる。	新田雅美	治田三夏男
3	平成27年6月12日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	7人	3.待ち合わせ(初中)	・待ち合わせの時間、場所等が理解できる ・待ち合わせの時間、場所等を相談して決めることができる ・待ち合わせの相手が来ない時、対応ができる	新田雅美	治田三夏男
4	平成27年6月19日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	8人	4.買い物(1)(初中)	・売り場のある階をサービスカウンターで尋ねることができる ・欲しい物のあるフロアで店員に商品のある場所を聞いて辿り付くことができる ・商品の在庫が無い場合に入荷の予定を聞くことができる	新田雅美	治田三夏男
5	平成27年6月26日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	10人	5.買い物(2)(初中)	・商品の表示が読める ・商品の説明を聞くことができる ・店員とやり取りをして、希望の商品を買うことができる	新田雅美	治田三夏男
6	平成27年7月3日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	8人	6.災害・安全薬局 文法コーナー付(初中)	・災害・安全—防災無線が聞ける、わかる。避難場所が聞ける。 欲しいものの場所が聞ける。 ・薬局—欲しい薬が買える。薬の注意書きが読める、わかる	新田雅美	治田三夏男

7	平成27年7月10日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	9人	7.買い物(3)(初中)	・試着ができるかどうか尋ねることができる ・希望のサイズや色の商品を手に入れることができる ・後日、理由を言って商品の交換や返品をすることができる	新田雅美	治田三夏男
8	平成27年7月17日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	9人	8.希望の食べ物(初中)	・おすすめの飲食店や食材屋を知人に尋ねることができる／教えることができる ・お店や物などの特徴を言うことができる ・場所を尋ねることができる／道順を教えることができる	新田雅美	治田三夏男
9	平成27年7月24日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	10人	9.あいさつ(初中)	・人とい関係築くための日常のあいさつ ・「さようなら」のいろいろな言い方を知る ・お土産など渡すときの言い方を知る	西澤清江	伊藤久美子
10	平成27年7月31日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	7人	10.レジでの対応(初中)	・レジでのやり取りができる ・ポイントカードが作れる、利用できる。 ・必要なものがもらえる	西澤清江	伊藤久美子
11	平成27年8月7日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	9人	11.アドバイスをもらう(初中)	・いいアドバイスがもらえる聞き方をする ・アドバイスをもらう相手(役所、目上の人、友人など)にあわせた聞き方をする	西澤清江	伊藤久美子
12	平成27年8月21日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	7人	12.余暇を楽しむ(初中)	・ぶどう狩りに行く。農園に問い合わせをし、必要な質問ができる。また、返事内容が理解できる ・施設等を使用する手続きができる	西澤清江	伊藤久美子
13	平成27年8月28日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	8人	13.ビジネス会話(初中)	・日本の会社における内外の関係を理解して、適切な表現ができる ・日本の会社で働く上で、適切な敬語を使うことができる ・日本での就職やアルバイトの面接におけるマナー、言葉づかいを理解し、適切な受け答えができる	西澤清江	伊藤久美子
14	平成27年9月4日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	8人	14.荷物を送る／不在票(初中)	・荷物を送る・再配達を依頼することができる ・郵便局等で荷物を送るときの手続きができる	西澤清江	伊藤久美子
15	平成27年9月11日 (金) 18:30 ~ 20:30	2	聖徳大学	8人	15.メール(初中)	・自身に届いたメールを読むことができる ・届いたメールに合った内容で、返信することができる ・助詞、接続詞などを正しく使うことができる ・親疎の関係にあった表現でメールを書くことができる	西澤清江	伊藤久美子

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第3回 平成27年6月12日】

テーマ「待ち合わせができる」

- ・待ち合わせの時間、場所等が理解できる
- ・待ち合わせの時間、場所等を相談して決めることができる
- ・待ち合わせの相手が来ない時、対応ができる

① 導入

- ・イラスト、写真を提示し「待ち合わせ」という言葉を引き出す
- ・「待ち合わせ」について、学習者に質問。「したことがありますか?」、「どんな時にしますか?」、「どんな所で待ち合わせをする?」など

② 展開 ～目的地がわからないので待ち合わせをお願いする、待ち合わせの時間・場所を理解する～

- ・上記の会話を学習者に考えさせた
- ・できあがったスキットを口慣らし練習、ロールプレイ

③ 展開 ～二人で待ち合わせの約束をする～

- ・待ち合わせの約束に必要な会話を、学習者と考えた
- ・できあがったスキットをもとに、ペアでロールプレイ
- 東京駅の地図、TDL、花火大会、美術館などのイラストを提示。誘う場面から始めた

④ 展開 ～待ち合わせに相手がこない～

- ・イラストを提示、場面にふさわしい、表現、会話を考えさせた。まず、電車が遅れる場面、次に待ち合わせ場所を間違えている場合。二つの場面を考えた
- ・ペアでロールプレイを演じさせた

⑤ 発展

- ・待ち合わせに関する失敗談を話してもらった



取組事例②

【第11回 平成27年8月7日】

テーマ「いいアドバイスをもらう」

- ・いいアドバイスがもらえる聞き方をすることができる
- ・アドバイスをもらう相手(役所、目上の人、友人など)に あわせた聞き方をすることができる
- ・もらったアドバイスを理解することができる

1.導入

教師と補助者で、夏バテ解消のアドバイスをもらうスキットを演じた

学習者に夏バテ解消のアドバイスをもらった

学習者に、誰にどのようにして、アドバイスをもらうか尋ねた

2.展開

① ベランダにハチの巣ができ困っているので、市役所の受付で相談する。この場面でどういう言い方で、アドバイスをもらうか、学習者と考えた

② 考えたスキットの口慣らし練習をさせた

③ 教師が市役所の受付、学習者が相談者でスキットを演じた。

学習者は自分が困っていることを相談させた

「すみません。ちょっと お聞きしたいのですが。」でスキットを始め、「わかりました。ありがとうございます。」で終わらせるように指示した

3.導入

台湾出身の学習者に、台湾旅行のアドバイスをもらった

4.展開

学習者同士で、旅行のアドバイスをもらうスキットを演じさせた。学習者同士で知り合いだが、友人未満という関係に相応しい会話にさせた

「ちょっと 教えてください。／聞いてもいいですか?」

「今 いいですか?」「参考になりました。」「ありがとうございます。」などの表現を使うように指示した

(9) 目標の達成状況・成果

「教材作成」の取組と連動する形で日本語教育を実施した。ニーズ調査の結果を基に作成されたカリキュラムを基に、指導者たちが合議で具体的な会話例やトピックに関連する学習事項を想定する作業を毎回続けた。これは、各回の簡易なテキスト作成にもなるが、ここではじめに提示する会話例は、あくまでも本時のトピックに導入するためのきっかけとした。

実際の授業では、この会話がなされる場面を想定しながら、そこで学習者が希望する生活行動を見つけ、テキストにはトピックに関係するさまざまな物品や状況などのイラスト、写真を用意し、学習者の方からそれらを手掛かりに、より積極的にニーズの把握や実践的技能の定着に努める工夫もなされた。

以下に、目標設定に対する具体的な成果を記す。

① 学習者のニーズに沿ったCan-do型会話を開発する……ニーズ調査に基づき、場面・トピックの設定やそこで予想される行動の実現につながる会話を基本に据えた授業は、行動目的に直結し、簡便な会話表現の習得につながることで、学習者の反応は良かった。

いわゆる「Can-do」の概念は、単に「〇〇ができる」というだけではなく、「人間関係の構築」や「動機や意欲などの心理面の変化(〇〇もやってみたい/〇〇も必要なことが分かった)も含まれるものであることを忘れてはならないが、この点の具体的練習に対して、学習者もよく反応していた。

② 学習者のニーズに応え、満足度を高める……学習者のニーズに応える授業とは、単にニーズ調査の結果を反映しただけの授業に終始することではない。その時々学習者の要望や、変化していくニーズに気づき、それに即応するアプローチが必要だが、この点について、指導者から「自然にそれを引き出すのが困難だった」との声が多く上がった。学習者の個々人のニーズの違いに即応するための段取りの難しさもあったが、学習者は積極的に要望を発言するなど、一定の満足度はあった。

③ 初級クラスよりも、学習者の自発的な発展練習・応用練習を促す……学習者の中には、ある程度の会話スキルがあっても、自分にどのような会話能力が欠けているのか分析できず、次の学習ステップが見出せない者もいた。「人とのつながり」を築くという点では、単に「台詞」が発声できるというだけでなく、声の表情や身振りの適切などにも練習を発展しなければならない場面も多いが、この練習については学習者にも好意的に受け入れられた。

(10) 今後の改善点について

学習者のニーズを把握し、それに準じた授業は、まずは基本的に「指導者—学習者」が対話型の授業に依らなければならない。現実の場面において、必要となる生活行動を実現するための会話は、広義のCan-do型授業、すなわち言語運用力を基本とする学習がのぞましい。Can-do型授業については、以下の点を今後さらに課題としてよりスムーズな指導が運ぶよう、検討していきたい。

① まず、言語行為のレベルとしての「〇〇ができる／できない」を確認する

② 行為の複雑さ、会話の流暢さに応じて、目標設定や評価に段階性を持たせる

③ 単に行為ができる(買い物ができる)だけでなく、「日本語を用いて人間関係が構築できるようになった」など、目的、成果等を含める

④ 動機や意欲などの心理面の変化も含めたものとする(例: 〇〇をしようと思うようになった、〇〇が大事だと分かった)

6. 日本語教育の実施【初級クラス】

(1) 活動名称

【初級クラス(月曜日)】外国人の生活行動に関するアンケート調査から、Can-do型授カリキュラムと振り返りシートを活用する授業

(2) 目的・目標

- ① 外国人学習者に生活行動をアンケート調査し、ニーズを正確に把握したうえで、学習者のニーズに沿ったCan-do型会話に反映する方法を開発し、指導することにより、日本語学習に対する動機づけを高め、日本語の習得を促進する。
- ② 学習者にも指導者が「振り返りシート」により目標の設定・評価が一緒にできる授業をおこなうことで、学習者のニーズに応え、満足度を高める。

(3) 対象者

原則として来日後短期間しか経ていない地域在住の外国人。国籍・年齢は問わない。また、他の異なるレベルのクラスも設定し、同時開催する。

(4) 使用した教材・リソース

オリジナル教材「生活行動一覧表」「各場面でのCan-do型会話」市販教材『できるにほんご』『みんなの日本語』ほか

- (5) 参加者の総数 10 人
そのうちの日本語学習者数 0 人

【出身・国籍別内訳】

中国	6人	インドネシア	0人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。
韓国	0人	タイ	0人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	4人	フィリピン	0人	
ネパール	0人	日本	0人	

- (6) 開催時間数(回数) 2 時間 (全 15 回)

(7) 日本語教育の実施内容【月曜日 初級クラス】

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年5月25日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	9人	1.自己紹介(初)	・自分の名前・国・来日した日について言える、また、相手に質問できる練習 ・自分の家族構成・居所について言える、また、相手に質問できる練習	甲斐宏子	市村末子
2	平成27年6月1日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	9人	2.電話(初)	・近所で見える病院、歯科医院などの看板から会話を膨らませた ・歯医者さん、奥歯、前歯など、よく使う単語の口頭練習	甲斐宏子	市村末子
3	平成27年6月8日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	9人	3.待ち合わせ(初)	・待ち合わせの日時、場所を決めたり、理解することができる ・遅れた場合の謝罪ができる ・迷ったときに自分の位置を説明できる	甲斐宏子	市村末子
4	平成27年6月15日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	8人	4.買い物(1)(初)	・買いたいものがどこにあるか、店員にたずねることができる ・売り場がどこかをたずねることができる	甲斐宏子	市村末子
5	平成27年6月22日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	9人	5.買い物(2)(初)	・店員に商品について尋ねることができる ・商品の表示を読むことができる(理解も含む)	甲斐宏子	市村末子
6	平成27年6月29日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	7人	6.災害・安全(初)	・災害時に状況確認などができる ・物資受取場所と受け取りができる ・地震速報や警報の意味を理解できる	甲斐宏子	市村末子
7	平成27年7月6日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	7人	7.買い物(3)(初)	・欲しいサイズや色違いの有無を尋ねることができる。 ・後日、理由を言って交換や返品することができる。	甲斐宏子	市村末子

8	平成27年7月13日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	8人	8.希望の食べ物(初)	・希望の食べ物を扱う店を探すことができる ・おすすめの飲食店を尋ねる/教えることができる	甲斐宏子	市村末子
9	平成27年7月27日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	8人	9.あいさつ(初)	・適切な日常のあいさつができる ・場面や相手に応じたあいさつができる ・おみやげなどを渡す際の適切な表現ができる	小宮山まり子	堤谷仁美
10	平成27年8月3日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	8人	10.レジでの対応(初)	・レジでのやりとりができる ・店員のていねいな言い方を聞いて理解できる(敬語を使って) ・店員に要求を伝えることができる	小宮山まり子	堤谷仁美
11	平成27年8月17日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	10人	11.アドバイスをもらう(初)	・よいアドバイスをもらえるような尋ね方ができる ・話を切り出す時のフレーズ「すみません、ちょっと お聞きしたいんですが」	小宮山まり子	堤谷仁美
12	平成27年8月24日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	9人	12.余暇を楽しむ(初)	・興味のある事について、調べ、問い合わせができる。 ・趣味のサークルを作り、参加者を募る(内容を詳しく説明する)	小宮山まり子	堤谷仁美
13	平成27年8月31日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	8人	13.ビジネス会話(初)	・会社などしごとの場面での表現を理解する ・内・外を考えて発言できる ・電話での伝言を聞きメモを取り、内容を伝えることができる	小宮山まり子	堤谷仁美
14	平成27年9月7日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	7人	14.荷物を送る／不在票(初)	・不在連絡票に対応できる ・方法を選んで荷物を送る	小宮山まり子	堤谷仁美
15	平成27年9月14日 (月) 13:30～ 15:30	2	聖徳大学	10人	15.メール(初)	・メールを読む、書く、送受信ができる ・誘いのメールを読む。参加・不参加を返信する。 ・断りのメールを読む。その返信をする	小宮山まり子	堤谷仁美

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第10回 平成27年8月3日】

テーマ「レジでのやりとりができる」

- ・店員のていねいな言い方を聞いて理解できる(敬語を使って)
- ・店員に要求を伝えることができる

① ウォーミングアップ

買い物について、普段、どこでどんな物を買うか、店員とどんな話をするかなどについて聞き出した。
また、店員とのやり取りで困ったこと、失敗したことについて話してもらった。

② 導入

1.場面の絵パネルを提示

どんな場面・状況を考えてもらった(適宜、ヒントを与えながら)

2.いろいろな場面を提示して実際に会話してもらった(教師は店員役、リキャストしながら)

・箸をもらう

・プレゼント用に包んでもらう

・保冷剤をもらう

* 店員:

「カードはお持ちですか?」「保冷剤は どうなさいますか?」「お持ち歩きのお時間は どのくらいですか?」

* 客:

「おはしを、もう1膳 いただけますか?」「プレゼント用に 包んでいただけますか?／お願いします」

③ 展開

・敬語への変換を練習後、ドリル練習した

します → なさいます あります → ございます きます → いらっしゃいます もっています → おもちです
ありますか → ございますか しっています → ごぞんじです …など

④ 本日のスキットを提示

学習者同士が店員と客になって会話

(敬語の使い方意識させながら)

【整理】

振り返りシートを使用



取組事例②

【第11回 平成27年8月7日】

テーマ「いいアドバイスをもらう」

- ・いいアドバイスがもらえる聞き方をすることができる
- ・アドバイスをもらう相手(役所、目上の人、友人など)に あわせた聞き方をすることができる
- ・もらったアドバイスを理解することができる

1.導入

教師と補助者で、夏バテ解消のアドバイスをもらうスキットを演じた

学習者に夏バテ解消のアドバイスをもらった

学習者に、誰にどのようにして、アドバイスをもらうか尋ねた

2.展開

① ベランダにハチの巣ができ困っているので、市役所の受付で相談する。この場面でどういう言い方で、アドバイスをもらうか、学習者と考えた

② 考えたスキットの口慣らし練習をさせた

③ 教師が市役所の受付、学習者が相談者でスキットを演じた。

学習者は自分が困っていることを相談させた

「すみません。ちょっと お聞きしたいのですが。」でスキットを始め、「わかりました。ありがとうございます。」で終わらせるように指示した

3.導入

台湾出身の学習者に、台湾旅行のアドバイスをもらった

4.展開

学習者同士で、旅行のアドバイスをもらうスキットを演じさせた。学習者同士で知り合いだが、友人未満という関係に相応しい会話にさせた

「ちょっと 教えてください。／聞いてもいいですか?」

「今 いいですか?」「参考になりました。」「ありがとうございます。」などの表現を使うように指示した



(9) 目標の達成状況・成果

「初中級クラス」と同様に「教材作成」の取組と運動する形で日本語教育を実施した。ニーズ調査の結果を基に作成されたカリキュラムを基に、指導者たちが合議で具体的な会話例やトピックに関連する学習事項を想定する作業を毎回続けた。

学習者はほぼ全員、来日も間もない外国人だったが、さまざまな状況を想定し、メモを取りながら聞く、話す、書く、という作業などは、現実の場面に近いもので、学習者もやりがいがあったようだ。

日常会話以外に、会社などでの「内」と「外」を意識する学習を望む学習者もあり、敬語の使い方(待遇表現)がむずかしいので、とっさの時に言えるようになるまでくり返し練習する必要があると感じた。仕事をしたいと思っている人が多く、とても熱心に取り組み、活発に質問も出た。

以下に、目標設定に対する具体的な成果を記す。

① 学習者のニーズに沿ったCan-do型会話を開発する……ニーズ調査の実施や、調査結果の授業時での反映の仕方は「初中級クラス」と同様だが、より日常的な行動目標を場面・トピックとして設定しただけに、指導者がややもすると「日本の生活文化の説明」に終始してしまう場面があり、学習者がやや受け身になる点も見られた。

一方、学習者の方でも、日本語の指導と、それに不可分にかかわる文化の説明との両方がニーズであることが多く、それにはある程度の満足度を与えることができた。

② 学習者のニーズに応え、満足度を高める……これも「初中級クラス」と同様、ニーズ調査の反映だけでなく、眼前の学習者のその時々ニーズ(学習トピックだけでなく、授業に対する要望も含める)を探りつつ、授業をするよう心掛けた。結果、授業時における学習者との基本的なコミュニケーションは比較的良好だった。ただ、指導者の発問の不適切さや、学習者のインセンティブをつかみきれない場面などもあり、学習者の方から指導者に話しかける場面が少ない時期もあったが、指導者と学習者との相互作用で授業をつくっていく、という趣旨は、次第に学習者にも浸透した。

(10) 今後の改善点について

対話型の授業にまだ慣れず、余裕がないため、授業の流れが教師誘導型で、スムーズな対話、学習者から言葉を引き出すことができない場面も多く見られた。振り返りシートの作り方や、聞き上手、質問上手など、反省点を踏まえ、次回に活かしたい。

・中国語話者、ベトナム語話者の混合クラスであったが、後半はクラスを国別で半分に分けてやってみたが、レベル別指導としてはうまくいった。ただし、これは口慣らし練習の場合のみに限られる。初級でも、レベルの違いによる指導の工夫は今後の課題である。

・中国人には、薬の用法や飲み方など、漢字で意味が理解できる部分が多かったが、ベトナム人は漢字学習の問題が残る。

・バックグラウンドの違いとレベルの違いで、それぞれに対応して授業を進めるのはうまくできなかったため、ほかの指導者に国別指導対応してもらった。単に、来日まもないというだけでなく、漢字圏と非漢字圏とで学習者の習得の違いにかなり異なった点が残った。指導面の工夫が必要で、今後の大きな課題である。

・「人とかかわる」など、日本人との円滑なコミュニケーションに関するニーズを要望するものが多く、敬語の適切な使い方の指導を望む声も多かった。「敬語は難しい」と日本人が思い込みすぎて、初級者にはあまり教えないのは、学習者との意識にずれを生じさせるかもしれない。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

外国人のニーズと振り返りを重視した指導法を研修する講座

(2) 目的・目標

- ① 外国人の生活行動から探るニーズを正確に把握し、Can-do型会話に反映する方法を研修する。
② 授業評価のあり方を「振り返りシート」の活用から指導者・学習者、双方の立場からおこなう方法を研修する。

(3) 対象者

地域でのボランティア日本語教育に従事している者。またこれまでに日本語教育指導をしてきた経験を踏まえ、外国人の生活行動を支えるCan-do重視の日本語教育に関心のある者。

(4) 使用した教材・リソース

担当講師のオリジナル教材。文化庁『カリキュラム案』『日本語能力評価について』『指導能力評価について』ほか

(5) 受講者の総数 28 人

【出身・国籍別内訳】

中国	0人	インドネシア	0人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 ・ ・ ・
韓国	0人	タイ	0人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	0人	フィリピン	0人	
ネパール	0人	日本	28人	

(6) 開催時間数(回数) 3 時間 (全 10 回)

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修テーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成27年5月30日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	21人	外国人のニーズと生活行動	外国人のニーズ調査だけがニーズに応える授業となるのではなく、即決型評価が重要なことを研修	北村弘明	片山朝夕美
2	平成27年6月6日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	24人	生活を支える活動と、会話指導法	英会話教育の場合のCan-do視点から、日本語教育への可能性を研修した	青山みゆき	新田雅美
3	平成27年6月13日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	23人	指導と評価の融合	振り返りの工夫と指導への活用の具体的方法について研修した	北村弘明	片山朝夕美
4	平成27年6月20日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	22人	「文化庁5点セット」の意義	その内容と活用のヒントについて、その作成経緯と共に研修した	加藤早苗	新田雅美
5	平成27年6月27日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	22人	教室における実践指導	外国人のニーズに応える指導改善方法を実際の授業例を振り返りながら研修した	加藤早苗	片山朝夕美
6	平成27年7月4日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	24人	Can-do型授業の実践例	有用と思われる指導手順と振り返り方法について研修した	北村弘明	片山朝夕美
7	平成27年7月11日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	17人	会話とコミュニケーション	社会言語学的な視野から、ポライトネス理論から探る会話能力について研修した	青山みゆき	新田雅美
8	平成27年7月18日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	23人	「人とつながる日本語」指導とは？	「通じる」だけではない会話能力を目指すためのプロフィেশナーの重要性について研修した	嶋田和子	新田雅美
9	平成27年7月25日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	26人	2つの評価方法と振り返りシート	教室活動の活性化を目指して、振り返りシートの活用方法を研修した	北村弘明	片山朝夕美
10	平成27年8月1日 (土) 13:30～16:30	3	聖徳大学	20人	外国人のニーズと学習目標の不可分	「ダンス型」の授業ではなく、「演芸型」の授業に移行する重要性を確認した	北村弘明	新田雅美

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第4回 平成27年6月20日】

授業題目「文化庁5点セット」の意義～その内容と活用ヒント

【授業項目／内容】(時系列に沿って、おおまかな授業内容を記入)

- ① 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標
日本語で意思疎通ができ、健康かつ安全に、自立した生活を社会の一員として文化的な生活ができるように支援する
- ② 「5点セット」カリキュラム案～教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示
言語や言語学習についての考え方、カリキュラム案で扱う生活上の行為の内容説明
- ③ ガイドブック～カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせるときのポイント
日本語教育プログラムの作成手順
- ④ 教材例集～行動・体験中心の教材の例示
実際の生活上の行為に続いて活動を写真・イラスト、言葉・表現シート等で構成
- ⑤ ワークショップ～話す立場、聞く立場、引き出す立場を少人数で実習体験
どんな聞き手であつたらいいかcan-doを前提で考える(傾聴)
- ⑥ 能力評価～振り返りの方法とポートフォリオの提示、やったことを確認して記録する
能力評価のポイント～できないことを見るのではなく、できたことをレベルに応じて評価する
- ⑦ 指導力評価～実践の振り返り・点検・改善から実践者のコミュニティの形成へ
指導力評価の目的と評価の対象―PDCAサイクルを回す、日本語指導力ポートフォリオ
- ⑧ インターカルト日本語学校「地域日本語教室」活動事例紹介

【受講者の反応】

ほとんどの人が文化庁の「5点セット」は知っている。しかし、その効果的な活用は十分とは言えないようで、講義の内容について真剣に聞いていた。質問や自分の所属団体での活動事例なども紹介され、活発な授業であった

【授業で特に気付いた点】

- ・ワークショップを挟むことにより、参加者同士の交流も出来、より活発な授業ができる
- ・授業は「分かる」から「できる」へ。5点セットも「知っている」から「上手に活用する」へ



取組事例②

【第8回 平成27年7月18日】

授業題目「人とつながる日本語」指導とは？ ～「通じる」だけではない会話能力

【授業項目／内容】(時系列に沿って、おおまかな授業内容を記入)

① Can-do型の指導ができれば良いというものではない

- ・学習者の発話をしっかり引き出すことが大事
- ・◆対話を大切に ◆「今ここで」を大切に ◆「人とつながること」が大切
- ・ダンス型から演芸型へ “場”をつくる！ 話したくなるテーマの提示。
- ・主役は学習者であり、教師やテキスト、教材etcはわき役
- ・対話を大切にし、「今ここで」を大切にすることとは、準備した教材やテキストが不要になることも…捨てる勇気を持って！

② 質問の仕方や質の問題。あいづち

- ・2つのインタビューを聞く
- ・質問の仕方や質、あいづちの入れ方が違い、学習者の言葉(発話能力)に差がでる
- ・発話の引き出しができれば、学習者のレベルが正しく評価できる
- ・質問の際、回答に広がりを持たせるような問いかけをし、語らせる時は語らせ、詰まっても待つ、そして後で訂正する時間を作る
- ・あいづちにもバラエティが必要。フィラーは名わき役
- ・あいづちにもお国柄があり。フランス・ドイツやらない
- ・関心があるとアピール。本当に聞きたいという気持ちが大切。しかし話を奪ってはいけない

③ 多様なモノを活かす工夫。「読み」

- ・「読み」から生まれる対話。“ポテトリング”や“まぜ卵”の事例。どうやって使うのか？など
- ・「考えること」が大事。新しいものを考えてみたりして、それを発話につなげる
- ・素材は良いものを使う

④ 日本で暮らす・日本を知る

- ・メールの返事の仕方。お見舞いの花は？お大事の気持ち

【受講者の反応】

2つのインタビューの差をリアルに感じ、質問やあいづちによって能力が正確に引き出せるか否かが指導者側にかかっているのを目の当たりにし、みな講座に引き込まれていったように感じた



(9) 目標の達成状況・成果

今回の事業の眼目である「外国人のニーズに応える授業」とは、単に授業開始前の診断的評価(アンケート調査やプレテストなど)にばかりに注目する授業ではなく、授業中の眼前の外国人の様子を即決型評価で判断して、おこなうべき授業を考えていくということも盛り込まれている。この趣旨は、参加者にも十分理解が得られた。

外国人の反応を即時に判断して、外国人が今何を希望しているのか、何が理解できて何が理解できずにいるのかを見極めながら、授業を進めることが重要だということについて強調した。しかし、アンケートなどによると、以下のような二つの困難点を指摘する意見も聞かれた。

一つは、「学習者の理解度を直下に把握することが困難だ」とする意見、もう一つは「理解度を見極めたとしても、指導案に用意していなかったことをその後に展開するのが困難だ」というものであった。外国人のニーズに沿った授業を展開しようとしても、「授業の中で対話していく中で、自分が設定していなかったテーマに話が進んでいったとき、自分がそれをどのように続けていったらよいのか、とても難しいです」などの声は、かなり長い経験を有する指導者からも寄せられた。

解決策としては、授業中の対話をあまり即興に任せ過ぎない、用意したテーマから学習者が興味を持ちそうなことをあらかじめ予想しておく、などの方法も話し合われたが、具体的にそうした授業のやり方を実感するために、「日本語教育」の取組での授業を実際に見学してもらうこととした。これについては、具体的な授業展開の方法や指導者の留意点などがわかってよかったとの感想が多かった。

「ニーズ」というテーマは、実践型会話指導などではよく聞かれる概念だが、実際にそれに応えていくためには、さまざまな次元や現状に対応できる指導者の能力も求められるわけであり、この点にどのような工夫を見つけていくかが今後の課題となる。

(10) 今後の改善点について

アンケート等の満足度からすると、特に大きな改善点というほどではないが、現実の地域日本語ボランティア教室の指導員などが日々感じている不安や問題点について、きめこまかな調査をおこない、実態を把握することが肝要だと感じた。

ニーズ調査と問題の把握ということについては、外国人学習者だけではなく、指導者にとってもまた同様の重要項目であると言える。

今後は、機会あるごとに、各地域日本語ボランティア教室の指導者と対話の場を設け、現状の課題について議論を深めていく計画である。

(1)教材名称

(2) 対象

(3) 目的・目標

- ① 学習ニーズとCan-do型会話例文とを体系的に分類し、学習者にtextとして配付する教材を作成する。
② 授業の終わりに、本日の授業でおこなった学習の要点とその成果を自己評価できる振り返りシートを作成する。

(4)構成 (総ページ数: 135ページ)

- | | | |
|--------------|---------------|-------------------|
| 1.自己紹介(初) | 6.災害・安全(初) | 11. アドバイスをもらう(初) |
| 1.自己紹介(初中) | 6.災害・安全薬局(初中) | 11. アドバイスをもらう(初中) |
| 2.電話(初) | 7.買い物(3)(初) | 12. 余暇を楽しむ(初) |
| 2.電話(初中) | 7.買い物(3)(初中) | 12. 余暇を楽しむ(初中) |
| 3.待ち合わせ(初) | 8.希望の食べ物(初) | 13. ビジネス会話(初) |
| 3.待ち合わせ(初中) | 8.希望の食べ物(初中) | 13. ビジネス会話(初中) |
| 4.買い物(1)(初) | 9.あいさつ(初) | 14. 荷物を送る／不在票(初) |
| 4.買い物(1)(初中) | 9.あいさつ(初中) | 14. 荷物を送る／不在票(初中) |
| 5.買い物(2)(初) | 10.レジでの対応(初) | 15. メール(初) |
| 5.買い物(2)(初中) | 10.レジでの対応(初中) | 15. メール(初中) |

※各テーマごとに「振り返りシート」の作成を含む

(5)教材の具体的な活用方法

会話の授業で使用するテキストとして作成。事前のニーズ調査で得た要望の高い生活行動に関わる会話をトピックとしている。提示した会話例は、そのトピックとして一番代表的、かつ実践的なものを設定したが、単にそのセリフを覚えるというのが目的ではなく、会話例は1つの具体的話題提供の役割も担うものである。

実際の授業では、この会話がなされる場面を想定しながら、そこで希望される生活行動を見つけ、会話例を展開していくことが目標である。そのきっかけとするため、テキストにはトピックに関係するさまざまな物品や状況などのイラスト、写真が用意されている。

具体的には、

①トピックの確認 → ②希望する生活高度の提示 → ③会話例で会話をしてみる → ④実際の場面で起こった関連事項の発表
→ ⑤展開練習 → ⑥知識の確認 → ⑦会話の確認練習

という手順でおこなう。

また、授業で取り上げた必須の習得事項を確認するため、毎回、「振り返りシート」を用意し、ともすれば散漫な印象を持たれがちな実践練習の要点を、再度、知識や文字のレベルでも確認し、学習者が自分の能力を分析する手掛かりとする。

(6) 具体的な活用例

本教材を、会話テキストと同様に利用するが、先述のようにここに提示されて会話例はあくまでも本時のトピックに導入するためのきっかけである。具体的には、

- ①トピックの確認 → ②希望する生活高度の提示 → ③会話例で会話をしてみる → ④実際の場面で起こった関連事項の発表
という手順をおこない、学習者のレベルや具体的ニーズ、理解度を勘案しながら、
⑤発展練習 → ⑥知識の確認 → ⑦会話の確認練習 → ⑧振り返りシートでの自己確認

と展開していき、各学習者のニーズに適合した会話能力を育成していく。

二一三 商品の位置を知る表現を学びたい

主教材 (教科書P.48)

① すみません。(お) 尋ねはどこですか?
店員: はい。今番通路の一番奥にあります。
客: ありがとうございます。



② (絵) パネル




(文字) パネル

裏 表 向かい

売り切れでしまいました 品切れ中です

③ (補助教材)





例文利用 しごき語学

【 今日学習したこと 】

年 月 日 必勝

1 あたりしく お勉強 ごとはば





【 】
【 】
【 】

自己紹介
 どちらが
 いっつ？
 国
 今年の1月
 毎年の2月



2015 年
1 月

2014 年
3 月

【 】
【 】
【 】
【 】

2 あたりしく お勉強 かむわ

1) 番凸紹介をしよう



こんにちは、おはようございます。
でもなんにも話しかけません。

名前も何となく聞き取れずして、そんなことを話しかけます。

年齢も何となくです。

国籍も何となく。

住所も1と2で。

ええと、これ。



3 皆様のコメント

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ① 外国人から生活場面で必要としている表現のアンケートを実施し、実践的なCan-do型指導の方法を検討する。
- ② 外国人の生活行動に結びついた表現のニーズを調査し、実効性のある会話例文を発見する能力を開発する。
- ③ 振り返りシートなどを活用した授業評価のあり方を研究する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

目標①について……アンケート調査については、学習が始まる前と、学習が後半に差し掛かる時点とでおこなった。これは、外国人のニーズが、固定されたものではなく、生活の変化や学習の進行状況によってかなり変わるものであることによる。事前のものでは実用的な「買い物」「電話」「あいさつ」などが多かったが、後半に差し掛かると、「人とのかかわる」「社会の一員となる」などの表現に対する要望が高まったようである。

目標②について……「人とのかかわる」「社会の一員となる」という項目へのニーズが高いのは、やはり、日本人と円滑なコミュニケーションをとりたいという外国人が多いからであるが、「具体的にどのような言語的手段があるか」となると、カリキュラム案に例示されている項目はそれほど多くはない。この分野の「会話を通じて相手をよく知りあう、心を通わせる」といった言語運用法の具体的な戦略が必要だと感じた。本取組では「あいさつ」ということを基盤に、いろいろなあいさつの仕方、どのような人間関係を構築できるか、という戦略的な方法を取った。

目標③について……振り返りシート作成で今回問題となったのは、授業でニーズに応えながら発展的練習をすればするほど、即興に出た学習項目については事前にシートとして作成が不可能であるという点である。ある程度の「見込み」をたてて作成したが、今後の課題である。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

本事業では、カリキュラム案の活用については、「標準的なカリキュラム案で扱う行為の事例」から、生活行動の必要度をアンケート調査用紙としてまとめた(別添)。また、会話の実践的運用練習の中に、知識として学ぶべき語彙や文法事項を「2生活上の行為の事例に対する学習項目の要素」を参考に、各回のテキストに盛り込む方法を示した。

地域日本語ボランティア教室でも、このカリキュラム案の存在については周知されつつあるようであるが、その理念や具体的指導につなげるイメージ、方法となると、まだ現実的な取組には応じ切れていない面が多いようである。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

千葉県東葛地域のボランティア日本語教室は、ここ数十年、かなり積極的に活動していると言える。本学は、早くから地域の国際交流協会などと連携して、有効性のある日本語指導方法について連携研究や研修会などを積み上げてきた。

特に、従来の形式的文型指導から「外国人の生活を真に支え得る日本語教育」に転換していこうとする機運が見られる一方で、多くの指導者にとっては、文型の表面的意味指導を目的とするいわゆる「教科書を教える」タイプの指導があまりに定着しすぎてしまったため、「文型指導中心型」と「Can-do型」との分断が起こりつつある。

本事業では、こうした問題に関し、「どのような現実的方策が考えられるか」について、今回も検討する機会が設けられたことは幸いであり、人材養成の受講者からのアンケートなどからもこの企画を歓迎する声が多かった。今後も、日本語教育に関する講演会、研修会などを開催し、地域との連携プログラムを構築したい。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

聖徳大学広報(チラシ・HPなど)および東葛地域の各市国際交流協会、教育委員会、日本語教室などに案内書を送った。大型店舗に設けられた市民広場なども利用し、チラシ配布、face book、などのソーシャルネットワークも活用した。

今回の成果は、聖徳大学の言語文化研究所が主催する各種の市民向け学術公開講演会や研究会などで公表していくつもりである。また、今回、地域日本語ボランティア教室から参加した指導者については、研究所の特別研究員として、連携研究を深めていく計画である。

(6) 改善点、今後の課題について

外国人のニーズを重んじた日本語教育というテーマを今回の事業で掲げた大きな理由は、やはり昨今の地域日本語ボランティア教室における指導法が、表面的形式と意味との知識的覚え込ませ型から脱却できていない点にある。「文法のルール」と「たくさん単語」とをきっちり教えれば、あとは独力により現実の場面でペラペラ会話できるようになる、という思い込み指導はかなり根強く残っている。

また、先進的な教授法で取り組もうとする指導者に対する組織として古い体質からくる圧迫という問題も持ち上がっているということも報告されている。

今回の事業では、「指導者が教えやすいように教える」のではなく、やはり「学習者が教わりたがっているように教える」という基本をCan-do型授業という具体的指導理念から取り上げたが、それは学習者の要望に指導者が盲従するというわけではない。本来、指導者は学習者に対する適切なアドバイザーでもあるわけで、今後、こうした点などを踏まえ、以下の3点を重点課題とした。

- ① カリキュラム案の理念の普及をコーディネーター任せにするのではなく、各団体の指導者との連携で、地域日本語教育プログラムの研究、発信基地を構築する。
- ② 各地域日本語ボランティア教室の本来の設立趣旨に基づいた活動がなされているか、それぞれの立場から合同で論議する場を設ける。
- ③ 地域日本語教育の実情に合った日本語教室の運営の在り方と指導法について、講演会、研究会を開催し、参加を呼び掛けていく。

(7) その他参考資料

人材養成講座アンケート結果

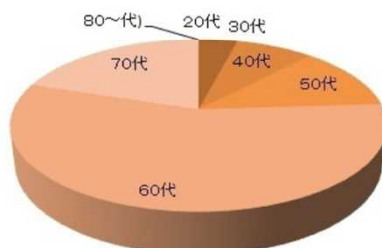
1.お住まいは？



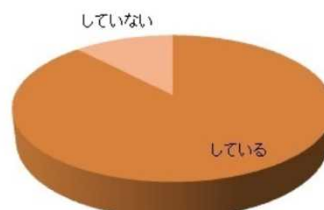
2.この講座を何で知りましたか？



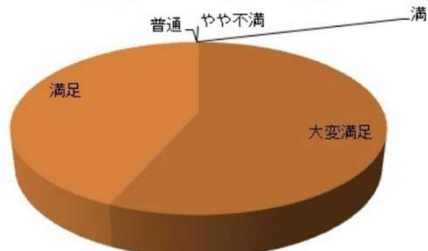
3.ご年齢は？



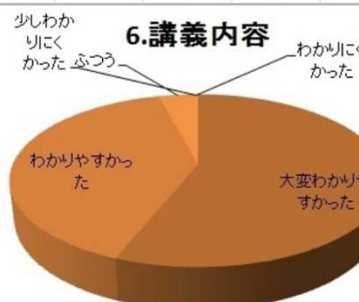
4.現在、何らかの日本語教育活動に参加していますか？



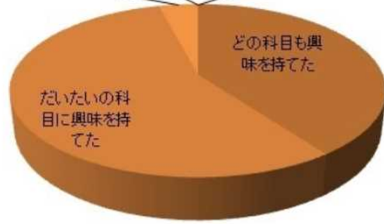
5.本講座の全体の印象



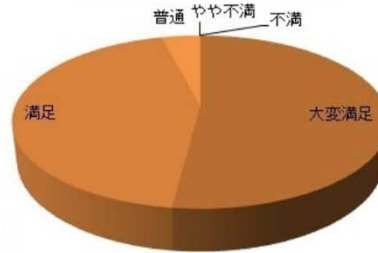
6.講義内容



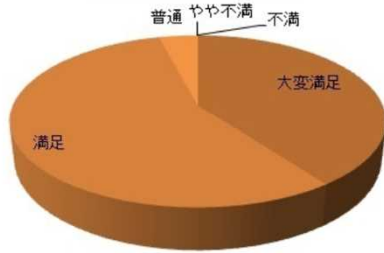
半分くらいの科目に興味を持てた
 少しだけ興味を持てた
 7.講座科目
 ほとんど興味を持てなかった
 どの科目も興味を持てた
 たいたいの科目に興味を持てた



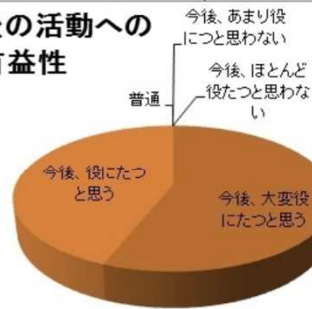
8.教室の状態・設備



9.授業の時間帯



10. 今後の活動への有益性



11.グループワークに関して

